

心の繋がり

関西創価中学校 2年

黒崎 藍

私はいとこに会うと、両手の人差し指を向かい合わせ折り曲げてあいさつをします。これは手話で「こんにちは」という意味です。そうです。私のいとこは耳が聞こえない聴覚障がい者なのです。いとこは今、男子大学生で忙しくてあまり会えていませんが、昔はよくおばあちゃんの家と一緒にゲームをして遊んでいました。

私が小学校低学年のとき、おばあちゃんの家に行くと、よくそのいとこがいました。いとこはゲームが大好きでいつもゲームをしていました。一緒にゲームをするのはとても楽しかったし、いとこはゲームがすごく上手だったので教えてもらうこともたくさんありました。今思うと、言葉を喋らなくても、こんなにもコミュニケーションを取れていたのはすごいと思います。でも考えてみるとそれは、心の繋がりがあったからだと思います。私はいとこと一緒にゲームをすることがあまりにも楽しかったため、いとこが「おしまい」の手話をする時、悲しくなったことを覚えています。

また、おばあちゃんといとこと一緒にハンバーガーを作ったこともとても思い出に残っています。そしてハンバーガーを作っている中で一つだけ覚えている会話があります。それはお肉を焼いているときのことで、バチバチと大きな音がしていました。おばあちゃんが手話でいとこに「この音聞こえる？」と聞くと、いとこは首を横に振ったのです。大きな音が聞こえないのは、危険に気づかないことがあるかもしれないので、みんなでサポートすることはとても大切だと思いました。そのために、障害を持っている人と持っていない人の心の輪を広げていくことも大切だと思いました。

また別の日には、私はおばあちゃんといとこのお母さんと一緒にいとこの小学校の劇の発表会に行きました。そこは障がいを持つ人が通う小学校です。そこで私はとても驚いたことがあります。それはいとこのお母さんがいとこの友達にお菓子をあげていたときのことで、いとこの友達は手話と一緒にカタコトでしたが、「ありがとう」と口に出して言っていたのです。私はおばあちゃんから、耳が聞こえない人は喋ることがとても難しいと聞いていたので、すごく驚きました。また感謝の気持ちが心から伝わってきました。やっぱり心は繋がっているなあと感じました。

思い返してみると、いとこの思い出はたくさんありました。そして私はいとこのおかげで学んだこともたくさんあります。私はいとこのおかげで小さい頃から、耳が聞こえない人もいることが分かったし、手話も少しだけできるようになりました。また、言葉の繋がりはなくても心の繋がりは持てることが分かりました。そのような心の繋がりを増やし、心の輪を広げていくことは障がいを持っている人をサポートする上でも大切だと思いました。そして今、いとこは国立大学に通っていて、本当に尊敬しています。障がいを持

っているからといってできないことはないと強く感じました。

また、私は SNS ですごい人を見かけました。その人は耳が聞こえないけれど他人が喋っている口の形や動きを見て何を喋っているのかを完璧に当てて、自分も喋っていました。それは、耳が聞こえないことをどこにも感じさせなくて、本当に人間は無限だと思いました。いところなどから学んだことを活かして、障がいを持っている人との心の繋がりを大切にすることと、色々なことに諦めずに挑戦することを大切にしていきます。